

レスリングの競技力向上のための攻撃と防御に関する研究（第6報）
— 2001年世界選手権大会と全日本選手権大会の比較—

Analysis of offensive and defensive wrestling skill techniques for finding out effective training methods (VI) : comparison of The World Wrestling championships for Free style in 2001 and The All Japan Championship for Free style in 2001

滝山 将 剛, 朝 倉 利 夫

Yukitaka Takiyama and Toshio Asakura

ABSTRACT

This paper is analyzed and compared the Japanese offensive and defensive patterns with the World Ones using a total of 32 bouts VTR records for 8 levels of the finals and the 3rd Place Competitions in in the 2001 World Wrestling championship Tournament Free style held in Sophia, Bulgaria and 2001 All Japan Wrestling championship Tournament.

The results was obtained as follows :

1. In the World championship, 14 bouts of 16 bouts (80%) were decision by points and 2 bouts were Great Superiority. For the All Japan championship, 12 bouts out of 16 bouts (75%) were decision by points, 3 bouts (19%) were Great Superiority and 1 bouts (6%) was fall.
2. The mean scoring for the final bouts of the world Championships was $4,00 \pm 1,20$, for the winner and $1,25 \pm 1,04$ for the loser, and for the 3rd competition was $5,38 \pm 3,20$ for the winner and $0,50 \pm 0,70$ for the loser. In the All Japan championship, the mean scoring for the final was $4,88 \pm 2,30$ for the winner and $1,13 \pm 0,99$ for the loser, and for the 3rd the competition was $4,63 \pm 0,92$ for the winner and $1,75 \pm 1,58$ for the loser.
3. Initial point was obtained 13bouts out of 16 bouts (81%) in the both World and All Japan Championships.
4. Stand techniques are classified into 11 techniques in the World Championship and scored 54 points.
 - (1) Single Leg Tackle 16 times (33%)、Points 16 (30%)
 - (2) Double Leg Tackle 8times (17%)、Points 12 (22%)
 - (3) Front Heat and Arm Control turn over 6 times (11%)、6 Points (11%)
 - (4) High Inside Crotch 4 times (8%)、4 Points (7%)
 - (5) Duck under 2 times (4%)、Points 2 (4%)

Standing techniques are classified into 11 techniques All Japan Championship and scored 58 points.

- (1) Single Leg Tackle 18 times (38%)、Points 18 (31%)
- (2) Double Leg Tackle 8 times (16%)、Points 9 (16%)
- (3) Duck under 6times (12%)、Points 7 (12%)
- (4) Front Head and Arm Control Go be hind 6 times、Points (10%)
- (5) Counter 3 times (6%)、Points 4 (7%)

5. Ground techniques are classified into 4 techniques in the World Championship and scored 35 points.。

- (1) Gut Wrench 12 times (60%)、Points 24 (69%)
- (2) Swich (Counter) 5times (2%)、Points 6 (17%)
- (3) Ankle hold 2 times (10%)、Points 3 (9%)
- (4) For Crotch Lift 1 time (5%)、Points 2 (6%)

6. Ground techniques are classified into 7 techniques in the All Japan and scoring 37 points.

- (1) Gut Wrench 12 times (63%)、Points 21 (57%)
- (2) Swich (Counter) 2times (11%)、Points 5 (14%)
- (3) Far Crotch Legs and Cradle 1time (5%)、Points 3 (8%)
- (4) Single Leg Scissors 1time (5%)、Points 3 (8%)
- (5) Roll Counter 1time (5%)、Points 2 (5%)

6. Clinch holds was obtained 5 times out 16 bouts in the World Championship, and 3 times out of 16 bouts in the All Japan Championship.

I はじめに

これまでにレスリングに関する研究では、体力に関するもの¹⁾、減量に関するもの⁹⁾、生理学的領域に関するもの¹⁾、心理学的に関するもの¹⁶⁾等幅広い分野からの報告がみられる。

筆者等は、レスリング競技の競技力向上を目的として世界レベルでの日本選手の競技成績に影響を及ぼすとみられる幾つかの項目について調査・検討し実戦に役立てようと報告してきた。ことに攻撃面では日本選手に最も適する技は何であるかを究明するために、(1) 複数の選手については、実際の試合で多用される技の分類、(2) 特定の選手については、国際大会における朝倉選手(1981・世界選手権大会F52kg級1位、1983年・

世界選手権大会F52kg級2位、1993年ワールドカップF52kg級1位)、高田選手(1984年ロス五輪F52kg級3位)、富山選手(1984年・ロス五輪F57kg級1位)、大田選手(1984年ロス五輪F90kg級2位)、宮原選手(1982年・ワールドカップG52kg級1位)らが実際の試合で多用した技及び、攻撃パターンと勝敗との関係等について分析をおこなってきた。その結果、(1) フリースタイルのスタンド(立ち技)においては“タックル”による攻撃頻度が高い、(2) グランド(寝技)においては“横崩し”による攻撃頻度が高い、(3) 取得点については“投げ技”いわゆる大技による取得点率の高い、(4) 先攻ポイント(Initial Point)の取得が勝敗に大きく関与し、先攻ポイントを取得した選手がその試合の勝利を得る確率が非常に高

い、また、3分2Periodの試合時間においては、1Periodでの得点のリードがその試合の勝利に結びつく確率が非常に高いことが分かった^{2) 3) 4) 7) 10) 11) 12) 13) 14) 15)}。また、これらに類する報告もいくつかみられる^{5) 6) 8)}。

そこで、本研究は、過去の研究成果をふまえ、このところ世界での活躍がとだえている日本と世界の差が何であるかを究明することを目的として、2001年、11月22日から25日ブルガリア・ソフィアで開催されたフリースタイル世界選手権大会と、2001年12月21日から23日代々木第2体育館で開催された全日本選手権大会のフリースタイルの試合について調査し検討することからレスリングの基礎的資料と技術の向上に役立てようとした。

II 調査方法

本研究で分析した試合は、2001年11月22日から26日までブルガリア・ソフィアにおいて開催された2001年度世界選手権大会フリースタイル8階級の決勝、3位決定戦の16試合及び、2001年12月21日から23日まで代々木第2体育館で開催された、平成13年度全日本選手権大会のフリースタイル8階級の決勝、3位決定戦の16試合の合計32試合を対象とした。これらの試合の全過程をVTRに収録しテレビ画面に再生し分析した。この際、(1)、試合内容、勝者と敗者の総得点、先攻 (Initial Point) について (2)、スタンド (立ち技) 及び、グラウンド (寝技) での取得点に結びついた技の頻度、(3) 四つ組 (Clinch hold; 1 Periodにおいて両選手共に無得点の場合及び、延長時において3点ノルマが達成されていない場合に、四つ組から試合を開始する、その際、最初に四つ組み手の体勢になる選手はトスにより決定される場合と消極性・Passivityを多く取得している選手が最初に組む権利を有する) か

らの攻防について、(4) パーテレー ポジション (Parterre Position・消極性を取られた選手がグラウンドの姿勢を取らされ攻撃を受ける) からの攻防についての項目について重点的に調査・検討した。

III 結果と考察

1. 試合内容、勝者と敗者の平均得点、Initial Point について

試合内容について

表1、表2、参照。世界選手権大会 (以下世界と省略) では、判定 (Decision by Point) が16試合中14試合 (88%)、T・Fallが2試合 (1,3%)、全日本選手権大会 (以下全日本と省略) では、判定 (Decision by Point) が16試合中13試合 (81%)、Fallが2試合 (1,3%) Technical Fall (以下T・Fallと省略) が1試合 (0,6%) であった。これらの結果、世界ではFallの試合は見られなかったが、

表1 2001年全日本レスリング選手権大会
Free style 決勝・3位決定戦

M=16

	決勝戦			3位決定戦		
54kg	松永	3-0	長尾	田南部	5-4	高橋
58kg	平井	6-2	増田	関川	4-3	久米
63kg	金淵	4-1	池松	山本	5-0	栗尾
69kg	宮田	4-1	天谷	工藤	5-3	池田
76kg	小幡	5-3	小柴	長島	4-1	鈴木
85kg	川合	10-0 (T,Fall)	仙波	横山	5-0 (Fall)	花田
97kg	中尾	3-1	浜中	小平	6-0 (Fall)	中邑
130kg	田中	2-4 (Fall)	藤田	沢田	3-0	諏訪間

表2 2001年世界レスリング選手権大会
Free style 決勝・3位決定戦

M=16

	決勝戦			3位決定戦		
54kg	BUL	5-1	IRN	KAZ	4-10	RUS
58kg	CAN	5-2 (延長)	MGL	BUL	3-0	GEO
63kg	BUL	3-1 (延長)	IRN	UKR	4-0	TUR
69kg	BUL	6-1	IRN	KOR	6-2	RON
76kg	RUS	3-2	KOR	USA	10-0 (T,Fall)	SUF
85kg	RUS	3-0 (延長)	USA	CUB	3-0	BUL
97kg	RUS	3-0	LUB	UKL	10-0 (T,Fall)	HAN
130kg	RUS	4-3 (延長)	BUL	HAN	3-1	UKL

世界及び、全日本の試合内容については類似するものであった。

a) 勝者と敗者の得点について

図3参照。得点は、Fall及び、T・Fallの得点についても、Fallに至るまでの得点を加算した。

世界では、決勝戦での勝者の平均点、 $4,00 \pm 1,20$ (標準偏差)、敗者の平均点、 $1,25 \pm 1,04$ 、3位決定戦では、勝者の平均点、 $5,38 \pm 3,02$ 、敗者 $0,50 \pm 0,70$ あった。全日本では決勝戦での勝者の平均点 $4,88 \pm 2,30$ 、敗者 $1,13 \pm 0,99$ 、3位決定戦では勝者 $4,63 \pm 0,92$ 、敗者 $1,75 \pm 1,58$ であった。これらの結果、世界及び、全日本共に勝者の取得点が4点～5点、敗者は1点で平均値の差はおおよそ5対1の割合で、得点差が見られる。市口(1989年、対象試合M=125、1990年対象試合M=419・5分1Period制)によれば、世界での勝者の一試合平均の取得点が6点～7点であったが、今回の調査では平均得点が約5点で一試合における平均取得点が下回っていたことが注目される。これは、対象とした試合が決勝及び、3位決定戦であったことで選手の力量が接近していたことと、現行ルールの3点ノルマ制(3点以上の得点で試合が成立する)が実施されたことにより、試合の成立を優先させる戦術であるのかの可否かを今後調査、検討する必要があると考えられる。

b) 先攻(Initial Point)について

世界では、16試合中13試合(81%)、全日本では16試合中13試合(81%)において先攻(Initial Point)を挙げた選手が勝利していた。これらの結果世界、及び、全日本においても先攻Initial Pointを挙げた選手が高い確率で勝利していることが見られた。この結果は市口、や筆者等の報告を指示するものであり短縮された試合時間内での必須の勝利パターンであることを示唆している。

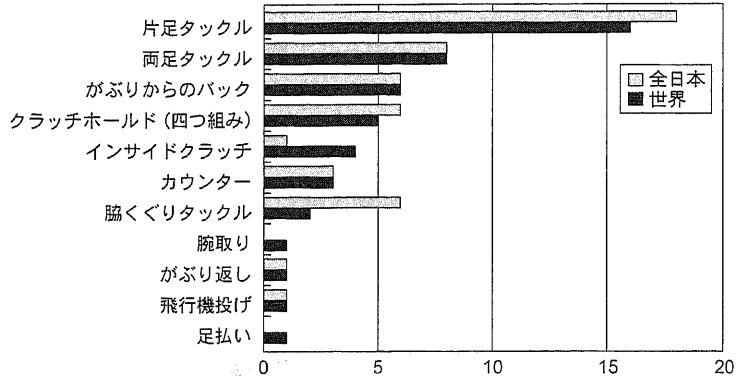


図1 Stand techniques

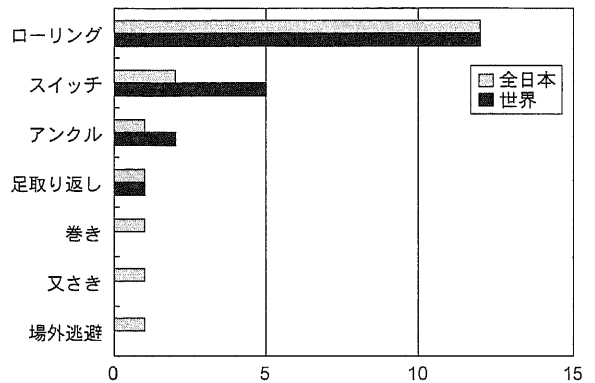


図2 Ground techniques

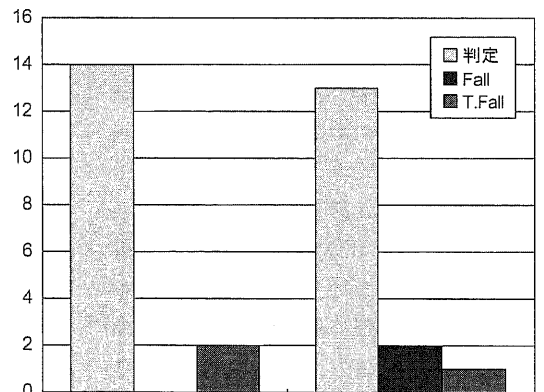


図3 2001 World Wrestling Championships All Japan Championships ree Style M=32

2. スタンド (立ち技) 及び、グラウンド (寝技) において取得点に結びついた技の頻度について、図1、図2参照

スタンド (立ち技) について、世界では、11種の技に分類が可能であり、取得点は54点であった。片足タックル (Single Leg Tackle) 16回 (33%)、取得点16点 (30%)、両足タックル (Double Leg Tackle) 8回 (1.7%)、取得点12点 (22%)、ガブリからのバック (Front Head and Arm Control turn over) 6回 (13%)、取得点6点 (11%)、ハイ・インサイド・クラッチ (High Inside Crotch) 4回 (8%)、取得点4点 (7%)、脇くぐりタックル (Duck Under) 2回 (4%)、取得点2回 (4%)、腕取り (two on one) 1回 (2%)、取得点1点 (2%)、飛行機投げ (Fireman's Carry) 1回 (2%)、取得点2 (4%)、足払い (Leg Trip) 1回 (2%)、取得点1点 (2%) であった。

グラウンド (寝技) について、世界では、4種類分類可能であり、取得点は35点であった。

横崩し (Gut Wrench) 12回 (60%)、取得点24点 (69%)、スイッチ (Swich・Counter) 5回 (25%)、取得点6点 (17%)、アンクルホールド (Ankle hold) 2回 (10%)、取得点3点 (6%)、足取り固め (Far Crotch Lift) 1回 (5%)、取得点2点 (6%) であった。

スタンド (立ち技) について、全日本では、11種類の技に分類が可能あり、取得点は58点であった。

片足タックル18回 (38%)、取得点18点 (31%)、両足タックル8回 (16%)、取得点9点 (16%)、脇くぐりタックル6回 (12%)、取得点7点 (12%)、ガブリからのバック6回 (12%)、取得点6点 (10%)、カウンター3回 (6%)、4点 (7%)、グラウンド (寝技) について、全日本では、7種類の技に分類可能であり、取得点は35点であった。

横崩し (Gut Wrench) 12回 (63%)、取得点21点 (57%)、スイッチ (Swich・Counter) 2回

(11%)、取得点5点 (14%)、足取り固め (For Crotch Legs and Cradle) 1回 (5%)、取得点3点 (8%)、股さき (Single Leg Scissors) 1回 (5%)、取得点3点 (8%)、巻き (Roll Counter) 1回 (5%)、取得点2点 (5%) であった。

これらの結果、世界と、全日本共に、スタンド (立ち技) では、片足タックル、両足タックル、の使用頻度が高く、グラウンド (寝技) では、横崩し、の使用頻度が最も高く攻撃内容が類似していた。

3. 四つ組 (Clinch hold) について

世界では、32試合中5回がみられた。それらは58kg級決勝、63kg級決勝で2回、85kg級決勝、97kg級決勝でいずれも決勝戦であった。

四つ組から技への展開は3回、組み手が離れての得点が1回、組で手のタイミングが合わず警告による得点であった。58kg級では、2-2からの延長戦からの、四つ組で、後ろそり投げで3点を取得、組み手からみて最も有効な技であった。63kg級では一回目は1 Period 0-0からの四つ組においては最初に組み手ができる優先権を得た選手が、後ろそり投げの移動ポイントで1点を取得した。2回目は1-1の延長での四つ組からのスタートであったがトス判定で優先権を得た選手と防御側の選手との四つ組のタイミングが合わず防御側の選手が警告点2点を取られ試合が成立し終了した。85kg級では、2-0からの延長戦であったが防御側の選手の組み手が離れたことで自動的に1 Pointが相手に与えられ3点ノルマが成立し試合終了。97kg級では、1 Period 0-0からの四つ組で優先権を得た選手がテイクダウンからグラウンドに持ち込み1 Point、アンクルホールドに展開して2 Point取得点がみられた。全日本では、16試合中3回、54kg級、69kg級、76kg級において見られた。いずれも四つ組から技には展開せず、組み手が離れてのポイントであった。これらの結果、世界では、四つ組から優先権を得た選手が得点に繋がる有効な技に展開する積極性が見られたが、日

本選手ではいずれも有効な技への展開は見られなかった。特異なケースでは、世界で、トスで優先権を得た選手と、守勢に回った選手の組み手のタイミングが一致せず守勢に回った選手が警告点を取られ敗れたケースである。

4. パーテリポジション (Parterre Position) からの取得点について

世界では、16試合中21回で、3回が得点に結びついていた。全日本では、16試合中22回で、2回が得点に結びついていた。これらの結果、得点に関係した割合は世界では14%、全日本では9%と低い結果であった。

IV ま と め

本研究では、2001年の世界選手権大会と全日本選手権大会の技術頻度と戦術等について、次の様な知見を得た。

1. 試合内容

試合内容では、世界では、16試合中14試合(88%)が判定 (Decision by Point)、Technical Fall (10ポイント差) が2試合 (12%)、全日本では、16試合中12試合 (75%) が判定、3試合 (19%) がFall、1試合 (6%) Technical Fallであった。

2. 勝者と敗者の得点については、世界及び、全日本共に勝者の取得点が4点から5点で敗者は1点で、平均値の差はおよそ5対1の割合であった。

3. Initial Pointについて

世界では、16試合中13試合 (81%)、全日本では、16試合中13試合 (81%) であった。

4. スタンド (立ち技) 及び、グラウンド (寝技) において取得点に結びついた技の頻度については、世界では、11種類の技がみられ、取得点は54点であり、主たる技は、片足タックル16回 (33%)、取得点16点 (30%)、両足タックル

8回 (17%)、取得点12点 (22%) であり、全日本では、11種類の技みられ、取得点は58点であり、主に、片足タックル18回 (38%)、取得点18点 (31%)、両足タックル8回 (16%)、取得点9点 (16%) 等であった。

グラウンドにおいては、世界では、4種類の技がみられ、取得点は35点であった。主に、横崩し12回 (60%)、取得点24点 (69%)、スイッチ5回 (25%)、取得点6点 (17%)、アングルホールド2回 (10%)、取得点3点 (6%) 等であり、日本では、7種類の技がみられ、取得点は35点であった。主に、横崩し12回 (63%)、取得点21点 (57%)、スイッチ2回 (11%)、取得点5点 (14%)、足取り固め1回 (5%)、取得点3点 (8%) であった。

5. 四つ組について

世界では、32試合中5回見られ3回が技に展開し、2回はクラッチの手が離れケースが見られた。全日本では、3回見られいずれも技には展開しなかった。

6. パーテリポジションについて

世界では、16試合中21回みられ、3回 (14%) が得点に結びつき、全日本では、16試合中22回見られ、2回 (9%) が得点に結びついた。

本研究において、国士舘大学体育学部平成13年度研究補助の交付を受けた。

参考文献

- 1) 堀居昭; アマチュアレスリング-レスリング競技における生理学的特徴について、3分2ピリオド制と、3分3ピリオド制の比較-昭和56年度、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No.11、競技種目別競技力向上に関する研究 (第5報) 日本体育協会、スポーツ科学委員会、P175-185, 1981.
- 2) 堀居昭・滝山将剛他; アマチュアレスリング-新ルールに基づく試合における技術分析-、昭和56年度、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No.11、競技種目別競技力向上に関する研究 (第5報) 日本体育協会、スポーツ科学委員会、P.189-191, 1981.

- 3) 堀居昭・滝山 将剛他；アマチュアレスリングー1982年度、全日本レスリング選手権大会での技術の特徴及び世界の現状一改正新ルールに基づく試合における技術分析1982年グレコローマンスタイルワールドカップを中心として一昭和57年度、日本体育協会、スポーツ医・科学研究報告、No競技種目別スポーツ医・科学 (第6報) 日本体育協会、スポーツ科学委員会、P.244-255, 1982.
- 4) 堀居昭・滝山将剛他；アマチュアレスリングー1983年度世界選手権大会の試合結果について一フリースタイル軽量級、グレコローマンスタイル軽・中量級の日本選手を中心として一昭和58年度、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11, 競技別競技力向上に関する研究 (第7報) 日本体育協会、スポーツ医科学委員会、P.273-291, 1983.
- 5) 市口政光・岩永丞恒；Analysis of Techniques in the World Amateur Wrestling Games, Greco Roman in 1979. 東海大学紀要, No11. P.74-85, 1981.
- 6) 市口政光；アマチュアレスリングの競技分析一1990世界選手権大会フリー・スタイル一東海大学体育学部紀要, No21. P.47-55, 1991.
- 7) 中嶋寛之・堀居昭；アマチュアレスリングーレスリング選手の体力向上に関する研究一 昭和52年度、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11, 競技力向上に関する研究 (第I報) 日本体育協会、スポーツ医科学委員会、P.78-94, 1977.
- 8) 大田章；Individual Wrestling Technique Analysis の試み一Beloglazov兄弟選手の技術特性一早稲田大学体育研究紀要, Vol.7, P.13-21, 1985.
- 9) Suzuki, K., A, Akutsu；Studies on Physical Weight Loss from View of Sports Medicine. Bull Physical Education and Recreation, Senshu University. P.65-80, 1973.
- 10) 滝山将剛；レスリングの技の研究一試合に多用される種類とその動きについて一国土館大学体育学部紀要, Vo1.7. P.19-27, 1981.
- 11) 滝山将剛・伊達治一郎・多賀恒雄・朝倉利夫；レスリングのルール改正 (1981.1.1) に伴う攻撃と防御のパターン一1981年度、世界選手権大会Free Style 52kg級優勝・朝倉利夫選手の場合一、国土館大学体育学部紀要, Vol.8, P.11-14, 1982.
- 12) 滝山将剛・伊達治一郎・多賀恒雄・朝倉利夫・竹島晴夫；レスリング競技力向上のための攻撃と防御に関する技の研究一第一報一、一1983年度、World Cup Free Style 52kg級優勝・朝倉利夫の場合一国土館大学体育学部紀要, Vol. P.16-24, 1983.
- 13) 滝山将剛・伊達治一郎・多賀恒雄・朝倉利夫・竹島晴夫；レスリングの競技の競技力向上のための攻撃と防御に関する技の研究一第2報一、一1983年世界選手権大会Free Style 52kg級準優勝・朝倉利夫選手の場合一、国土館大学体育学部紀要, Vol.10, P.9-14, 1984.
- 14) 滝山将剛・伊達治一郎・朝倉利夫・多賀恒雄；レスリングの競技の競技力向上のための攻撃と防御に関する研究一第3報一、一ロスオリンピック大会でメダルを獲得したFree Style 52kg級高田選手・57kg級富山選手・90kg級大田選手の場合一、国土館 大学体育学部紀要, Vol.11, P.21-27, 1985.
- 15) 滝山将剛・伊達治一郎・朝倉利夫・屋比久保・多賀恒雄；レスリングの競技の競技力向上のための攻撃と防御に関する研究一第4報一、日本選手とソ連選手の比較一、国土 館大学体育学部紀要, Vol.12, P.19-27, 1986.
- 16) 滝山将剛；アマチュアレスリングーレスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化と競技成績との関係一平成7年度、日本体育協会医・科学研究報告、No11、競技力向上に関する研究 (第19報) 日本体育協会、スポーツ医科学委員会、P.291-293, 1995.
- 17) 角田直也；アマチュアレスリングーレスリング選手の1990年の体力について・フリースタイルの日本選手とソ連選手における形態と筋力の比較一平成2年度、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No11、競技力向上に関する研究 (第14報) 日本体育協会、スポーツ医科学委員会、P.311-315, 1990.